

# 糖尿病には 敗者復活戦がある

危機的状况から自力で復活したYさんのケース

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医  
院 院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	Y・M様	年齢	41歳	性別	男性	現病歴	糖尿病
------	------	----	-----	----	----	-----	-----

糖尿病は、一度かかってしまうと一生治らない病気といわれますが、果たしてそうでしょうか。例えば、相撲なら土俵から足が出てしまうと終わりですが、糖尿病という病気は足が出ても再び土俵に戻ってこられる、すなわち敗者復活が可能な病気だと私は考えます。

Yさんは、その典型でした。修業の末、40歳近くで念願の和食料理店を開店。最高の味を提供したいとの思いから、すべての料理を何度も味見するほどの熱の入れようでした。

味見によるカロリーオーバーはもちろん、初めての自分の店というプレッシャーもあったのでしよう。しだいに疲れを感じるようになり、今年の3月に私のいる医院を受診されました。

そのときの血糖値は313mg/dL、ヘモグロビンA1cは11.5%。インスリン治療も必要なくらいの糖尿病でした。

しかし、たいへん真面目なYさんは、薬に頼らず自分で改善したいとおっしゃる。そこは料理人ですから、しっかりカロリーコントロールをして食事で治してい

たいと。

以後、受診のたびに数値は順調に下がっていき、半年後の9月の検査では、血糖値は、100mg/dL、ヘモグロビンA1cは6.3%になっていました。いわば、土俵から完全に両足が出ていた状態から、ご自身の努力で再び土俵に戻ってこられたわけです。

しかし、いったん土俵から足が出てしまうと限りません。くれぐれも油断されないように、とお伝えしておきました。